

学年	氏名	「小樽運河は守れなかった」視聴感想
3		結果として小樽運河は守れなかったとしても、小樽運河保存運動があったからこそ今の小樽の景観や、小樽の歴史、文化を大切にしようという思いが今も引き継がれているのだと感じた。小樽商科大学の生徒として私自身も小樽の歴史をもっと学びたいと思ったし、大切にしたいと思った。
3		私自身大学に入るまで小樽に対する愛着はなく、3年前小樽に移り住み感じたことはたくさんある。最初の一年はコロナの影響があり店などがほとんどやってなかったため暇つぶしがてら小樽市内をずっと歩き続けるという生活を過ごしている中でだんだんと自分の街だという感覚になっていき、今では卒業後もここですみたいとまで思っている。実際に友人はこの小樽運河を守る会までは行かないが、同世代で小樽をもう1で盛り上げていこうという活動をしている。私も志の大小があれど同じ思い出があるが、何か活動したことがあるかといえば何もしていなかった。そのため今回このボランティアに参加することで実際に小樽への思いを活動にすることができると思った。
3		小樽の代表的な観光資源として捉えられている運河が、実は完全な形ではなく、長期間にわたって道路建設のための埋め立て派と対立した末、折衷案として半分埋め立てられたものだったことを知り驚いた。一方、自分が生活をしていく中でも車線数の多い臨港線の道路は便利で欠かせないものだと考える。現在の小樽は、多くの観光客が魅了される運河と、多くの市民や観光客の動線となる道路が共存しているように見え、保存派にとっては心残りの結果であったとしても、街にとっては決して悪い結果ではなかったのではないかと考えた。
3		日々、大学に行くにあたり、何気なく通っている小樽運河について深く知ることができた。小樽は観光地であるが、通学に通う街であるので観光地としての小樽を再認識し、観光というものがいかに小樽に大きな影響を与えているかを知るきっかけとなった。また、小樽市民が私の予想するよりもっと小樽運河という財産を大切に思っているのだということを理解することができた。
3		私は小樽にずっと住んでいたため、市民運動の事や運河の埋め立てについて揉めていた歴史があったことは知っていた。だが、当事者からの証言を聞いたのは初めてで、自分の街の変革についてここまで考えて行動している人達がいたんだなという事を知れて、運河が少し身近になった気がする。
3		自分が思っていたよりもずっと運河に対する小樽市民の思いは強いんだと感じた。これからも小樽に関わり続けられたらと思う。
3		小樽の運河を巡る歴史はとても興味深かったです。先人たちの苦悩と努力に心を打たれ、自分もぜひ小樽運河の魅力を発信していきたいと強く思いました。
3		小樽運河が実は半分埋め立てられていたことを初めて知った。志村市長の今回埋め立てを辞めてしまうと今後国からの支援を受けられなくなり、道路を作れなくなるといったミドルマン的視点があったことに感動した。市長は小樽のことを思っていたが、市民から反対されていて、複雑な気持ちになった
3		小樽に住んで3年目、なんとなく小樽に住む年配の方々を苦手感じていたが、運河埋め立て反対運動をしていた人たちには興味が湧いた、当時の話と今の話をもっと聞きたいと思った。 小樽は実用じゃない部分に寛容な流れが、既にできていることが嬉しく感じた。
3		証言者の地域を大事にする感性が興味深かった。私はまだ子供が欲しいとか思ったことはなく、地域を大事にする価値観がわからないので、この先また変わってくるのだろうなと思った。

3	<p>小樽商科大学に入学して3年間、小樽の街並みにも慣れ、そのシンボルである小樽運河にも親しみを抱いてきましたが、その埋め立てについて過去に対立運動があったというのは知りませんでした。証言ドキュメントということで、当時の関係者の方々がお話を語られていましたが、どの立場であっても皆が小樽という土地への思いを持って行動を起こしていたのだというのが心に響きました。今までこの小樽という土地について、そしてその過去と今後について深く考えたことはありませんでしたが、映像を視聴して現在の小樽が作り上げられてきた過程を知ったことで、小樽の価値とそれを守っていくことの重要性がわかりました。雪あかりの活動がその第一歩であると思うので、是非参加したいです。</p>
3	<p>運河の歴史を初めて知れてよかった。観光地としてまだまだ魅力があると思うので、発信につながることをしたいと思う。</p>
3	<p>衝撃的でした。荒々しい表現もあったため少し恐怖を覚えたのが率直な感想です。 しかし、小樽市民の方々が運河を含めた小樽をいかに大事にしているのかという思いも垣間見えたように感じます。 また、見覚えのある街並みやカフェ等もあり、今後訪れてみたいと思いました。</p>
3	<p>「小樽運河は、十数年に及ぶ埋め立て論争の末、両者の折衷案となるような形で一部が埋め立てられた」という出来事自体は、1年次に何かの授業で聞いた覚えがあった。 ただ、その背景や、当時の人々が抱えていた思いまでは知り得なかったため、一口に「埋め立て」と言っても捉え方が大きく変容したという実感がある。 新たな小樽運河を受け入れた人、一部埋め立てを敗北として受け止めた人、ただ純粋に小樽を愛する人。様々な人の思いが込められた小樽運河で、私はどのような思いを込めるべきなのだろうか。 雪あかりの路ボランティアでは、今の運河に関わる多くの人と交流することができる。その体験から、自然と込めべき想いは導かれるのではないかと考えた。 「守れなかった」小樽運河は、少し様を変え、今は多くのボランティアや市民、観光客によって愛され、守られている。その様を雪あかりの路で見られることが、非常に楽しみである。</p>
3	<p>小樽運河がこのような歴史の経緯で整備されていたことを知らなかった。結果的には全面保存とはならなかったが、小樽のシンボルとして残っていることによって市民に愛されるだけでなく、観光資源ともなっており、風景の良さ、小樽市だけの良さというのが小樽運河にはあると思った。地域の良さを残して実現することの成功事例はあまりないと思うが、どういう想いで残したいのか、その中でどうしていくかという意思の強さも大事だと感じた。雪あかりも市民が感じている温かい運河を実現できるイベントだと思っているので、その担い手として地域の活動に参加していきたい。</p>
2	<p>現在の観光都市である小樽が誕生するまでの歴史を知ることができました。当初の予定である、運河の大部分を埋め立てる計画では現在の小樽は無かったのかなと思います。 埋め立てを賛成する立場の方も反対する立場の方もどちらも小樽を思う気持ちがもともとなっており、小樽への愛を感じました。 小樽運河をめぐって活動してくれた過去の方々へ感謝の気持ちが芽生えました。新たに小樽に関わる人間として、この歴史を伝えていき、小樽を大切にしていきたいです。</p>

2	小樽運河が以前は今の2倍の面積であったこと、今運河で歩けている道は埋め立て地だったこと、そしてその埋め立てを巡った長きにわたる論争が繰り広げられていたことを一切知らなかった。採決の際に大きな乱闘が起きてしまい市民が分断されてしまった過去を何も知らないまま小樽運河を通っていた自分を恥じる気持ちが芽生えた。当時が高度経済成長期の真っ只中であったことを考慮すると、大きな道路を作って経済のさらなる発展を促進する流れに小樽に限らず日本全体が逆らえなかった事実、更にそこに各地の市民の意思の介入が許されなかった現実が窺えたが、それでも当時の市民たちが自分たちの運河や小樽に込める思い、あるいは葛藤をなんとかしてぶつけようとしていた歴史が、あの運河に存在していたことを忘れずに、その場所で雪あかりの路のボランティアを行えることに感謝しなければならないと思った。
2	小樽運河が意味するものを少し理解できた気がしました。 大学に入るまで小樽を知らなかった私にとっては小樽運河をメインとしたイベントに参加できるのはとてもありがたいことだと感じました
2	今では小樽運河は小樽随一の観光名所としてなくてはならないものとなっているが、このような歴史背景も含めて運河を見るとまた面白いと感じた。 昔の小樽の人々がなにを考え、どのような思いで運河を守ろうとしたのかよく分かった。運河開発をめぐる開発推進派、運河保存派それぞれの思いがあり、都市開発の難しさを感じた。さらにそこに経済界や政治、国との関係も関わってきて非常に複雑化していたのだと感じた。歴史的な文化や建物には想像以上に価値があり、新しければ、利便性があれば良いというだけではないと感じた。
2	小樽に約2年間住んでいますが、今まで何気なく見てきた街並みにこんなにも壮絶なストーリーがあったとは思いませんでした。今回、雪あかりの路に参加して小樽に少しでも貢献できたらと楽しみにしています。
2	運河がむかしもっと会ったってことは聞いた事があったけど、こんな論争があったけどまで知らなかった。運河は小樽にとって大切なものなんだと思った。
2	以前「商大くんが行く！」学生ブログスタッフの合宿で、運河プラザのカフェの佐々木さんにお会いしたことがある。 その時は運河の話について軽く触れただけだったが、番組を見て時代の転換点に大きく関わった方だということを改めて感じ、もう一度お話ししてみたくなった。 また、後半に出てきた北海製罐第三倉庫についても、一年半ほど前に基礎ゼミで関わりを持ったことがあり、それ以来北運河エリアを訪れる度に感慨深い気持ちで倉庫を見ている。今年の雪あかりの路では北運河エリアまで範囲が広がると聞いて嬉しかった。倉庫と北運河エリアとキャンドルが共存する光景に運営側として携わりたいと思う。
2	自分は大学に通うために小樽で一人暮らしを始めましたが、いつも見ていた小樽運河に埋め立てられた過去や激しい論争があったことを知りませんでした。自分は小樽運河の景色がとても好きなので全てが埋め立てられなくて良かったと思いますが、埋め立て賛成側の意見も聞いてとても難しい問題だったのだと感じました。
2	小樽出身でない、外から来た人が小樽の運河を保存するために行動することが凄いことだと思った。映像を見た限りでは一概に運河を全面保存するべきだったとは思えないし、非常に難しい問題だと思った。

2	<p>運河保存運動が行われていたことは知っていたが、今では当たり前観光地として存在している小樽運河なので、ビデオで視聴したように市民の多くの方が強い思いで保存運動に参加していたことに驚いた。小樽市民の小樽に対する強い思いがあったので今の観光地として栄えている小樽があるのだと思うし、市民同士の強い結束力に心を動かされた。</p> <p>小樽の良さ、小樽らしさ、小樽にしか出せない魅力は小樽市民の方々が一番知っていて、今の小樽運河があるのも小樽市民の方々のおかげだと感じた。</p> <p>また、文化を守り、継承することの大切さを知り、ますます小樽が好きになった。</p> <p>あと2年、せっかく小樽というまちにいられるのだから、ボランティアなどを通じて小樽の地域の方と交流をして、小樽に貢献していきたいと思った。</p>
2	<p>それぞれの立場の人が、それぞれ小樽への思いがあって行動していたことや、それがつながって現在の運河の姿になったことを理解した上で小樽市民として生活していきたいと思います。</p>
2	<p>運河に埋め立ての歴史があったこと、その背景を今まで知らなかったため、衝撃を受けた。結果として観光の街として運河が活着ていることを考えると、半分でも残ってよかったなと感じる。</p>
2	<p>現在、観光地として多くの観光客が訪れている小樽運河にこのような背景があるということを知らなかったのが衝撃的だった。</p> <p>映像では市民の方々ひとりひとりの強い思いが語られていて、小樽のことをこんなにも強く感じているということがわかった。自分自身も小樽の街のことを考え、小樽で生きている人間の1人として運河にはこのような背景があり、景観を守ろうとしてきたのにも関わらず守れなかった人たちもいるということを心に留めておきたいと感じた。</p> <p>また、ボランティアに参加することになった際には、開催される意味や雪あかりが開催される場所や、新たに開催エリアとなった北運河エリアの背景を思いながら参加したいと思う。</p>
2	<p>運河が埋め立てられていたこと、それに反対運動があったことをひとつも知らなかったです。ただ運河保存派も埋立派にも小樽を守りたい、良くしたいという気持ちがあったんだと思いました。今日観た動画を踏まえると今までの小樽運河とはまたひとつ違った小樽運河として見えてきました。</p>
2	<p>2歳のときから小樽で育ち、運河にも何度も訪れているが、想像を絶するほどたくさんの人々の想い、葛藤、涙、情熱が込められた場所なのだという事実を初めて知った。</p> <p>特に藤森氏の赤い運河の絵には、当時の感情がそのまま閉じ込められているように見えた。</p> <p>小樽市は坂ばかりで雪も多く、住むにはとても不便で、今となっては市民の数こそ大幅に減少してしまったが、かつての人々が残してくれた運河や歴史的建造物などの観光資源のおかげで、観光都市として生き続け、今もなお輝きを失っていない。</p> <p>この度の雪あかりの路ボランティアを通して、小樽市民の1人として、小樽商科大学の学生として、かつての人々の想いを繋いでいきたい。</p>
2	<p>運河を保存することを目指す市民の歴史的建造物の解体や運河の埋め立ては恥であるという考えも理解できるが、私は経済活性化を優先した市長の政策を讃えたい。</p> <p>臨港線を延伸するために全てを埋めるのではなく、運河を残しつつ経済面を重視した政策は、市民との関係性も含めて非常に難しかったと思う。小樽雪あかりの路に参加した際には、昔の小樽市民の思いを感じつつ、活動していきたい。</p>

2	自分にとって、今ある小樽運河の姿が当たり前で埋め立てられた経緯は知らなかったし、知ろうともしていなかった。昔はこういうことがあったんだと正しく後世に伝えられなければ、その出来事は人々の頭の中から消えていくのだと感じた。せつかく自分が小樽運河に関わる機会を得られたのだから、運河について理解して、その美しさをより多くの人に広める手伝いがしたいと思った。
2	今回この動画を見て、運河を保存する派と、埋め立てる派のどちらの意見も共感出来るところがあると感じた。また、自分の故郷のために行動に移せることが地元のための貢献になることを改めて理解することが出来た。私は、運河が半分埋め立てられていたことを知らなかったため、このような運動があったことを知りとても驚いた。保存派は、小樽の伝統を残すために、埋め立て派は、小樽の未来のためにという気持ちがあって行動していたことが伝わった。大津先生がおっしゃっていたように、小樽は市民がまちづくりにとっても関わっていることが分かったし、今回のボランティアでそれを体験してくるので何か学べるようにしたいと思う。
1	私は、小樽学を受講して小樽運河の歴史や背景について学習し、小樽について興味を持ったので、このドキュメントを以前自宅のテレビで見ただけがありました。小樽は、運河を守るという目標を掲げて、市民全体が小樽のために団結して守ろうとしてきた街です。結果、運河は埋め立てられてしまいましたが、今ある運河や街並みを守ろうとする気持ちは今も昔もずっと引き継がれてきたものであると感じます。そういう意味で、「雪あかり」は市民の運河を失ってしまった悲しみも含めて、ただ綺麗なものだけでなく、歴史や人々の思いもたくさんつまった大切なものなのだというのを、改めてこのドキュメントを見て感じました。
1	小樽の街並みの歴史や埋め立ての論争についてなど、小樽について知らないことが多かったのだと実感した。今の小樽があるのは、そうした昔の取り組みがあってこそだと思うので、昔のことだから関係がないとかではなく、小樽を訪れる際はそうした歴史を実感しながら過ごしたいと思う。また、これからもっと小樽と関わり続けていくためにも、今回のような背景について理解を深めておくことは非常に重要だと思った。
1	小樽運河が半分でも残ったのは昔の多くの人の努力のおかげだということを初めて知りました。私自身も小樽運河があるからこそ、修学旅行や家族旅行で小樽を訪れました。今も、小樽に観光に来る多くの人々が同じ理由だと思います。それも小樽運河が残ったからであり、もし小樽運河の大部分が道路として埋め立てられていればこのように毎年大勢の、国内のみならず国外からの観光客も来ることはなかったかもしれないと考えると、小樽運河を守る会の方々は小樽にとってとてもすごいことをしてくれたんだなと思いました。
1	小樽運河が埋め立てられた経緯は先輩から教わっていたので知っていましたが、詳しいことを知ることができとても楽しかった。あの建物が第3倉庫ということを知れて嬉しかった。やはり「知る」ということはその事物についてより愛を深めることである感じ、知識を増やしたいと思った。
1	自分たちの街のために行動を起こして、勝ち負けでは測れない大きな結果を残した人たちは本当にすごいと思いました。最近、第三倉庫を初めて実際に見て、その時は何も知らなかったけどなんとなく魅力的な建物だと感じました。建物が残っている背景も知って、もう一回見に行ってみたいなと思いました。
1	小樽の運河は、残されているものだと思いついていましたが、多くの市民と行政が戦ってやっと残されたものなのだとということが分かりました。保存することの大切さを学ぶことができました。
1	こんなにも歴史があるとは知らなかった。保守派にも、保存派にも考えがあって、立場が関係したり、様々な思いが複雑に関係した結果であったことに驚いたと同時に、残ってよかったなと感じた。闘いに負けても、今に通ずるものがあるのだと感じた。すごく興味深かった。

1		<p>映像内に出てきた佐々木さんに、去年お会いした。小樽を昔のことから今のことまで知っている方で、小樽商科大学の古い写真をたくさん見せてくれたことを覚えている。その佐々木さんも、小樽運河の保存運動に関わっていたことを知って驚いた。よく、観光客が小樽運河で記念撮影をしているが、その場所は埋め立てが行われた場所だ。今日もこれからかも、観光客は保存運動のことも知らずに、運河で記念撮影をするのだろう。</p> <p>一度壊してしまったものは、もうもとは戻せない。半分は埋め立てられてしまったものの、保存運動を行った市民たちが懸命に残した小樽運河は、完全体ではないものの、今も小樽の観光産業に大きく貢献している。なにか役に立つかもしれない、そう思って街のものを保存していくことは、大切なことだと感じた。</p>
1		<p>運河が保存運動の結果残っているということは知っていたが、ここまで深い経緯があったということは知らなかったのでとても興味深かった。これまでは結果的に運河が観光資源として残っているために保存運動は成功したと言えると思っていた。しかし6車線道路によって街と海が分断されてしまったのだというのを聞き、運河沿いの道路を越えて海側に行くことがほとんど無いという自分の経験と合わせて驚いた。</p>
1		<p>小樽運河の保存運動の結果を残そうとして、様々な活動をしていることは聞いたことがありましたが、小樽に住む方々が大変尽力されていて、この動画のような深い経緯があったことは知らなかったため、とても興味深かったです。運河プラザのカフェの方が完全な形での運河の保存活動をしようと、努力されていることを知り、私は小樽に住んではいますが、なかなか運河沿いの道路を越えて海側に行くことは無かったため、意識したことはありませんでしたが、六車線道路によって街と海が分断されてしまったのだというのを聞き、このような状況があったという事実には驚きました。</p>
1		<p>小樽運河に何度も行ったことがあり、小樽運河は昔から今まで同じ形を保ち続けていると思い込んでいたので、今回のビデオは自分にとってとても衝撃的なものであった。形を変えてはいるものの、観光資源として存在自体はまだ完全に消えることはなくて良かったと感じた。また運河の保存運動を無駄にしないためにも今残っている運河を最大限に有効に使い、小樽市の良いまちづくりに繋げる必要があると考えた。</p>